

# サラ金と結託する 銀行カードローン

生活苦に陥った人から14%もの高金利をとる銀行カードローンの貸付残高が急激に伸び、社会問題になっていきます。背景には、銀行とサラ金業者(消費者金融会社)の密接な関係があります。

(杉本恒如、山田俊英)

金融機関の労働組合で構成する金融労連の田畑俊郎書記長はある金融機関で働く男性から相談を受けました。カードローン契約獲得の激しいノルマに悩まされ、体調を崩したといいます。

顧客連れて行き  
男性が携わっていたのは、ATM(現金自動預払機)に顧客を連れ込んでカードローンの使い方を教える商法でした。カードローン用のカードを作っても借金をしない顧客が多いためです。カードが郵送される日を狙って顧客の自宅を訪問し、ATMに連れて行き

ました。必要のない借金を顧客に背負わせ、高利をとるやり方です。こうした商法を指導していたのは、保証会社から派遣された専門講師でした。銀行カードローンは、保証会社が保証料をとり、債務の返済を連帯保証する仕組みです。多くの場合、サラ金業者が保証会社となっています。

「銀行カードローンはサラ金とは違うというイメージがあるかもしれませんが、でもさうではない」と田畑さんはいいます。「返済できなくなると債権が移り、サラ金業者が取り立てるのです」

## 生活壊す「保証委託」

例えば三菱東京UFJ銀行のホームページでカードローンを申し込むと、「保証委託約款」に同意するよう求められます。株式会社アコムに保証を委託することを記した書類です。返済が滞りアコムが肩代わりしたとき、借り手は①残元本②利息③遅延損害金④費用⑤年14・5%の損害金(日割計算)をアコムに支払うことなどが書かれています。

「保証委託約款には生活破壊する恐ろしい内容がたくさん盛り込まれています。しかし借り手はその内容を理解できるような説明を受けていません」  
東京・玉川民商の海老名正一事務局長は資金繰りに苦しむ中小業者や若者に被害が広がりがかねないと心配します。

アベノミクスで  
銀行とサラ金業者は手を結び相互に依存してカードローンを育成しています。土壌となっているのはアベノミクス(安倍晋三政権の経済政策)です。田畑さんはいいます。

「異次元金融緩和」で金利が低下し利ザヤが縮小する中で、高金利のカードローンは銀行にとっておいしい。サラ金業者に保証してもらえば面倒な取り立てを任せられます。サラ金業者は規制を強化され自ら負

## 検査踏み切る金融庁

世論におされ

金融庁は1日、銀行カードローンの実態調査のため近く、銀行に立ち入り検査を行うと発表しました。これに先立ち、金融庁の担当者は、日本共産党の大門美紀史参院議員に対し「国会での指摘や消費者の声を踏まえた対応だ」と説明しました。カードローン問題だけで検査に入るのは初めてです。結果したいでは銀行に改善を求める方針です。

今回の検査ではカードローンの残高が多い銀行に対し「過剰融資を防ぐ審査体制があるか」「保証会社の

審査に過度に依存していないか」「配慮に欠けた広告、宣伝になっていないか」「貸し付け後の顧客の状況を把握しているか」をただします。店舗や行員の「業績評価体系」も調査対象です。ノルマを課してカードローン拡大を促進しているかどうか調べます。

金融庁はカードローンの貸し付けにあたって「収入証明書に基づく客観的なチェックが働いていない」「銀行が保証会社の審査に依存し、しかも融資限度額



三菱東京UFJ銀行のATM(東京都内)

の管理が十分に機能していない」ことなどを問題視しています。  
金融庁は1日、電話による情報提供を広く呼びかけた「カードローン・ホットライン」も開設しました。日本弁護士連合会は4月に発表した会長声明で「借入残高が年収の3分の1を超える貸し付けを原則として行わない」こと(総量規制)などを求めました。また、銀行の自主規制だけでは不十分だとし、審査体制の構築などを金融庁が監督指針に明記することや、国が法改正で銀行カードローンを総量規制の対象にすることを提言しました。